

人権コラム 心、豊かに

◆ 母子の笑顔を守ろう

日本：0.9 人/1,000 人。

パキスタン：45.6 人/1,000 人。

この数値は、本年 2 月にユニセフが発表した『生後 28 日未満で死亡した乳児』の割合です。生後間もない赤ちゃんの死亡率が世界一低い日本と最も高いパキスタン。その差は約 50 倍です。

そんな“赤ちゃんが安全に生まれる国”日本で、妊産婦（お母さん）の死亡原因の 1 位が「自殺」という悲しい現実を知っていますか。

東京 23 区を例にあげると、平成 17 年からの 10 年間に計 63 人の妊産婦が自殺で亡くなっています。（平成 28 年東京都監察医務院などの調査結果）さらに、出産後に自殺した産婦の 3 分の 1 が「産後うつ」であったとの報告もあります。自殺や虐待などにつながる恐れがある「産後うつ」は、産婦の約 11 人に 1 人が患うとされ、その他のうつ罹患率より高い値を示しています。

出産後の急激なホルモンバランスの変化、育児不安、ストレスなど「産後うつ」を引き起こす要因は多種多様です。また近年、核家族化や出産年齢の高齢化などを背景に、頼れる親族などが身近におらず、産後のサポートや助言を受けられない妊産婦も増加しています。こうした妊産婦が孤立し、心身共に^{ひへい}疲弊し不安が増大していく姿は想像に難くありません。

このような状況を踏まえ、国は昨年 4 月に「子育て世代包括支援センター」の全国展開が可能となるような法改正を実施するとともに、8 月には「産前・産後サポート」と「産後ケア」事業のガイドラインを公表しました。母子がどこに住んでいても安心して健康な生活が送れる社会の構築を目指し、妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援体制の整備に乗り出しています。

赤ちゃんの健やかな成長を見守るためには、周囲の協力はもちろんのこと、母親の良好かつ安定した心身状態は欠かすことができません。母親の孤立を防ぎ、ささいな疑問や不安などを気軽に話せる人と人のつながりが『母子の明るい笑顔が溢れる地域』を形成していくはずです。